

平成32年度(2020年度)からの 丹後の府立高校の新しいカタチ

京都フレックス学園構想にもとづく新設高校
(峰山高校弥栄分校校地：3分校の継承)

地域に学校を残し、学校、生徒、地域を
つなぐ新しい学びの場「学舎」のスタート
(入学者選抜は各「学舎」ごとの実施)

※現在中学3年生の皆さんは、入学した府立高校、
分校で学校生活を送り、卒業します。

平成32年度(2020年度)からの 丹後の府立高校の新しいカタチ

京都フレックス学園構想にもとづく新設高校
(峰山高校弥栄分校校地：3分校の継承)

自分のペースで「自立心・主体性」を
身に付けることができる、
生徒のチャレンジをサポートする高校を
峰山高校弥栄分校校地に新設

平成32年度(2020年度)からの 丹後の府立高校の新しいカタチ

**京都フレックス学園構想にもとづく新設高校
(峰山高校弥栄分校校地：3分校の継承)**

- 宮津高校伊根分校、峰山高校弥栄分校、網野高校間人分校の優れた教育実践を引き継ぎ、その良さを生かした教育活動を展開
- 自分の学習スタイルに合わせて、4年または3年で卒業することが可能
- じっくりと落ち着いて学ぶことができる昼間定時制
- 幅広い分野を学習できる単位制総合学科

平成32年度(2020年度)からの 丹後の府立高校の新しいカタチ

地域に学校を残し、学校、生徒、地域を
つなぐ新しい学びの場「学舎」のスタート
(入学者選抜は各「学舎」ごとの実施)

これまでの4校が、
校舎やグラウンドなど全てが残りながらも、
2つの高校として生まれ変わります。

【宮津高校・加悦谷高校】が1つの高校に

【網野高校・久美浜高校】が1つの高校に

平成32年度(2020年度)からの 丹後の府立高校の新しいカタチ

地域に学校を残し、学校、生徒、地域を
つなぐ新しい学びの場「学舎」のスタート
(入学者選抜は各「学舎」ごとの実施)

基本的には、それぞれの「学舎」に通学し、
それぞれの「学舎」独自の教育課程で学びます。

「学舎」だからこそできる合同部活動や遠隔
教育の実施等、連携した教育活動も行います。

これまで培われた教育実践を共有することで魅
力的な教育環境にしていきます。

平成32年度(2020年度)からの 丹後の府立高校の新しいカタチ

部活動

丹後地域の府立高校では、それぞれの高校の「部」が少人数化しているため、公式大会に出られない可能性が高くなったり、集団としての練習ができなくなってきました。



「学舎」だからこそできる。

平成32年度(2020年度)からの 丹後の府立高校の新しいカタチ

- ・ 1つの高校の「部」として、全国大会にも出場できる。

例：A高校のサッカー部が6名、B高校のサッカー部が5名のとき、2校合同チームとして府内大会にしか出場できなかったが、「学舎」とすることで、全国大会出場へのチャンスが生まれる。

- ・ 平日(1日～2日程度)や休みの日に、各「学舎」にある「部」が一緒に練習することができる。

例：金曜日の放課後にA学舎の野球部の生徒がB学舎に移動して、B学舎の生徒と一緒に練習を行うことができる。

平成32年度(2020年度)からの 丹後の府立高校の新しいカタチ

合同活動は、現中学3年生が高校3年生
となる平成33年度から本格実施予定

例：現在の中学3年生が網野高校バスケットボール部に入部
した場合

平成31年度(高校1年生時)

- ・網野高校1～3年生で出場

平成32年度(高校2年生時)

- ・網野高校2～3年生＋〇〇高校網野学舎1年生で出場

平成33年度(高校3年生時)

- ・網野高校3年生＋〇〇高校網野学舎1～2年生＋久美
浜高校3年生＋〇〇高校久美浜学舎1～2年生で出場

高校が事前に計画する部活動での「学
舎」間移動では、経費負担はありません。

平成32年度(2020年度)からの 丹後の府立高校の新しいカタチ

授業

府立高校に通学する生徒数が少なくなると先生の数も減るため、進路希望に対応した選択科目を設定できなくなったり、生徒の理解度に応じた少人数講座等が設定しにくくなります。



「学舎」だからこそできる。